

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170300267		
法人名	社会福祉法人 親誠会		
事業所名	グループホーム ひまわり昭和町		
所在地	鳥取県倉吉市東昭和町143番地		
自己評価作成日	令和2年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=3170300267-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=3170300267-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和2年9月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

倉吉の中心部に位置している施設である。近くの公園に出かけたり、桜が身近に見られる事で季節を感じやすい。毎月1回は外出・外食を行い楽しみの提供を行っている。理念に沿って、日中はラジオ体操、運動、嚙下体操、レクリエーション等活動量を増やし、活気のある生活をしてもらえるよう、心掛けています。就寝前にタクティールケア・マッサージを取り入れ安心感、落ち着きのある、穏やかさを感じて頂き安眠効果につなげている。個々に合った、役割の提供を行う事で「私達は必要とされている。」という満足感、自信を感じてもらい、感謝の言葉を伝えている。利用者様・家族様・職員が寄り添える環境作りに努めかかわりを増やす事で、笑顔や笑い声が聞こえる環境の中で、個々を尊重しながら生活をしている。また、月1回の地域交流で、地域の方、隣接施設の方と一緒に物作りや認知症の勉強会を行い、社会とのつながりを大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

倉吉市内の中心部に位置するグループホームです。法人の他施設も多く集まっており協力体制が取られています。利用者の方は一人一人に合った役割を持って頂き満足感を得られています。表情もあり職員も優しく接して頂ける事で、楽しく過ごされています。就寝前に職員からタクティールケアを受け穏やかさを感じられ安眠されている方もあります。 「新型コロナウイルス」感染防止の為ホーム内の消毒、うがい、手指消毒等が徹底して行われています。また、地域交流や家族会開催、ボランティアの受け入れ、地域の子ども会との交流等、また家族との面会や外出も中止されていますが、利用者は職員と共にホーム内でカラオケや風船バレー、生け花等を行われストレスが大きくならないよう生活をされています。職員は会話を多くしたり声掛けや様子に注意をしながら支援をされています。毎月1回の外出や外食等についても可能な方法を工夫しながら対応されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をリビングに掲示目に入るようにし、周知、理解をしている。理念に基づき、普通の暮らしができるよう、個々に合わせた役割提供を行っている。また、行事、地域交流への参加を行い、社会との関わりを図っている。	職員は理念を理解し、ケアが行われています。基本理念はリビングのテレビ周りに掲示され、利用者家族、面会の方、ボランティアの方、地域の方等に見て頂けるよう工夫されています。理念に則り、普通の暮らしが出来るよう利用者個々に合った役割を持って頂いたり、社会との関わりを持って頂けるよう支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の行事、地域交流を開催、参加し、地域との交流を図っている。また、ボランティアの受け入れや地域の子供会との交流を図っている。	地域交流や家族会の開催、認知症の勉強会、ボランティアの受け入れ、地域の子ども会との交流を図られておられます。事業所と地域とのつきあいは継続されています。本年度は「新型コロナウイルス」防止策として、地域交流や地域との付き合いが中止されています。	利用者はホーム内でカラオケや風船バレー等を行なわれています。4月には天気の良い日に絵下谷川へ散歩に行く事ができストレスも少しは軽減出来たようです。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流、家族会の開催時、認知症について勉強会を行い、理解や支援、声掛けの仕方等理解をしてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催することができている。GHの活動内容、研修報告、事故、ヒヤリハットについて報告し参加者より意見やアドバイスを参考にし、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されています。利用者状況、行事報告、研修報告ヒヤリハット、事故報告等報告され、意見、アドバイス等を頂かれ支援に活かされています。「新型コロナウイルス」対策として書面会議も実施されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の市の相談員の来所、運営推進会議の参加、生活保護担当者の方々と適宜連絡、報告を行い、協力関係が築けるよう努めている。	市の介護保険担当には運営推進会議にも参加頂いております。また、生活保護担当の方とも適宜連絡や報告行なわれ協力関係を築かれています。市の介護相談員さんによる利用者の方に対する相談事業も2ヶ月に1回実施され、結果を聞き支援に活かされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、GH内と年2回の研修を実施、身体拘束委員会への参加し、伝達研修、報告を行っている。全職員に周知を行い、正しい理解をし拘束しないケアの取り組みに努めている。	身体拘束をしないケアの実践についての研修は、法人内、GH内で年2回実施されています。法人による年6回の身体拘束委員会には、GHからも参加され職員に伝達研修、報告が行われ、全職員に周知され正しく理解され身体拘束をしないケアに取り組まれています。管理者はスピーチロックについて指導されています。接遇研修等でも話し合われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、GH内での研修を行い、虐待防止についての理解、知識を身に付け、職員間で話し合いを行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう努めている。	法人、外部研修への参加し知識向上に努めている。また、職員間で共有し必要性の話し合いの機会を持ち、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすい言葉を使い、丁寧に伝えている。説明時、不安は不明点をたずねながら理解、納得して頂けるように努めている。改定時も文章の案内だけではなく、電話、面会時の説明を行い、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置し意見や要望を自由に書けるようにしている。また、面会時には家族様との会話を積極的にとり、意見や要望を伺い、運営に反映できるよう努めている。	玄関口に意見箱を設置され意見や要望を頂けるようにされています。家族の面会時には積極的に意見や要望を伺われ運営に反映されます。面会が少ない家族や遠方の家族には、電話で報告や意見、要望を伺われます。毎月ホームのお便りを送付し、日頃の生活や行事等ホームの暮らしがご家族にも分かるよう工夫が行われています。	電子メールを利用したの、日々の活動風景や表情等やり取りも活用されても良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートを活用、月1回の業務検討会議の実施時、申し送り時に職員から意見、提案を出してもらっている。また、年数回の面談を通して要望等を聞き運営に反映できるよう努めている。	連絡ノート、月1回業務検討会議の実施や申し送り時の意見・提案等をケアや業務に活かされています。管理者による職員面談も行われており、年度初めに目標を決め年度末に評価が行われています。また、年数回の面談で意見・要望等を伺われています。法人会議には管理者が参加され、意見・要望を話す事ができます。管理者は日頃から職員に声掛けされ意見・提案を伺われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価月に面談を実施し本人の希望、意向等を聞き、本人に合った環境で働きやすい環境が作れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを	法人研修の参加、個々に合わせた外部研修への参加を促している。伝達研修を行い、他職員への周知し、業務に活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修へ参加し他施設との交流を図っている。他施設の取り組みを持ち帰り、情報共有、実践しサービスの向上に努めている。また、外部研修を通し、ネットワーク作りを行い、意見交換ができる機会を確保が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族、関係者に聞き取りを行っている。本人や家族より不安や要望、意向等を伺い積極的に話しかけを行い、話ができる雰囲気作り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、本人、家族の意向や要望、不安事等を聞き、分かりやすい説明を行い、関係作りに努め、スムーズにサービスが導入できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取り調査時に本人、家族より意向、要望を聞き、それにより必要なサービスの提供、支援すべきことを見極め、本人に合ったサービスの提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の生活リズムを把握し、入所後も同じ生活リズムで生活出来るよう配慮している。家族の一員として本人の思いを尊重した声かけし、安心して生活出来るよう、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの意向、要望等を伺い、安心して生活が送れるよう努めている。また、面会に来やすい環境作りに努め、面会時には日々の様子を伝え、情報を共有し合い、家族との関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ出掛けたり、知人や近所の方の面会を促す事で馴染みの関係が途切れないよう努めている。また、外出時に馴染みの場所に立ち寄り、関係が途切れないよう努めている。	馴染みの美容院を利用されたり、知人や近所の方の面会があります。外出時に馴染みの場所に立ち寄られる等、馴染みの関係が途切れない支援が行われています。「新型コロナウイルス」対策の為、現在は馴染みの人との面会や場所に出かけ、外出を行われていません。	馴染みの関係の方や場所について、関わりがある場合など、その事に対して話をすることで回想法に繋げることも良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し職員が仲介役となり、利用者同士で会話ができるよう支援している。レク、役割提供、行事参加を通し、利用者同士で協力する事で利用者同士の関係性が保たれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所となった場合でも、家族や病院に状態確認のため、連絡を取ったり、面会に行き経過のフォローに努めている。再入所についても、関係機関と連携しスムーズに支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、日々の会話から本人の希望、意向を引きだされるよう努めている。	入所時のアセスメントや日々の会話から本人の希望、意向を伺われています。希望、意向から普通の暮らしが出来るよう個々に合った役割提供を行われています。困難な方には家族やアセスメントから希望、意向を把握されています。	思いや意向の把握から、生きる目標につなげられるようされると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人、家族からの会話からきき、職員間で共有し、把握し馴染みの関係、環境が整えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、一日の生活パターンを把握し、日々の心身状態を観察、把握し、職員間で情報交換、共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わる関係者(家族、医療関係者、リハ職、ケアマネ、介護員等)により、様々な意見を伺い、本人の思いを尊重し現状に合った介護計画を作成している。	担当職員は利用者や家族、リハ職、介護職、看護師等よりから要望・意見を伺い原案を作成されます。原案を家族や関係職員とサービス担当者会議を開催後、介護計画作成者は本人の思いを尊重され普通の暮らしが出来るよう個々に合った役割提供よう介護計画を作成されます。状態変化が起きた時は介護計画の変更が行われます。モニタリング・月1回、評価・見直しは3ヶ月に1回実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、日々の様子、ケアの実践、気づき、変化を記録に残し、職員間で情報共有をしながらケアの実践、介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況の変化、ニーズ(問題点)に気づき、多職種と連携を取りながらより新たなサービス、よりよいサービスが提供できるよう取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流で地域の方と一緒に作品作りを行い、それを地域の文化展へ出展している。異動スーパーでの買い物を行い、地域での生活が出来るよう支援している。また、行事でボランティアに場所してもらい、地域との繋がりが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い、家族の協力のもと継続して受診できるよう支援している。受診後は受診内容を職員間で共有し、次の受診に繋げている。	入所時にかかりつけ医の確認を行われ、利用者全員協力医をかかりつけ医とされています。受診は協力医と連絡を取り家族が同行受診されます。独居の方や家族が遠方の方は職員が同行受診をされます。受診後は受診内容を職員間で共有され支援を行われ次の受診に繋がられます。整形外科、眼科等は家族が同行受診されます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電話、ラインワークスの使用、訪問時に利用者の日々の状態について報告し相談、協力を受けながらケアや主治医への上申、受診に繋げ、早期発見が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、定期的な面会、家族、医療関係者、地域連携室と連絡を取り、状態を伺い、把握に努め、今後の対応が早期に出来るよう情報共有、交換、相談が出来るよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について説明し意向を伺っている。また、主治医、訪問看護師、家族等の関係者と話し合いの場を設け、本人、家族の意向に沿ったケアが出来るよう、都度話し合いを行っている。また家族が納得できるよう説明をし、多職種と連携をしながら看取りケアが出来るようチームで取り組みが出来よう努めている。	入所時に終末期について説明され意向を伺われます。主治医、訪問看護師、家族等と話し合われ本人、家族の意向に沿ったケアが行われるよう状態変化等の時は都度話し合われます。家族が納得できるよう説明され多職種と連携しながら看取りケアが行われるようチームで取り組まれています。看取り研修もホームで行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人、GH内研修を行い、全職員が周知が出来るよう、学ぶ機会を設けている。不明点は主治医、訪問看護師に相談し、指示や指導を受け、定期的実践、訓練を行い、身に付けれるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、年1回災害訓練(主に水害訓練)を日中、夜間想定で実施している。同時に通報訓練も行っている。地域の方へ参加を促し、協力を得られるよう、体制作りに努めている。	年2回火災訓練、年1回災害訓練(水害訓練)を日中、夜間想定で実施されています。同時に通報訓練も行われています。地域の方へ参加を促され協力を得られるよう体制作りに努めておられます。備蓄も用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩とし、尊重した声かけを個々に行っている。自尊心を尊重したケアに努めている。また、利用者の前で話をする時はイニシャルを使用しプライバシーに努めている。	人生の先輩として敬い、尊重した声掛けが利用者一人ひとりに応じて行われています。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないケアが行われています。職員は利用者の前で話をする時はイニシャルを使用しプライバシーの確保に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中より思いや希望、意向を引き出し自己決定ができる環境作りにも努めている。また、外出時、日々の服選び、食べたい物、外出先(散歩等)声かけを行いながら自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活リズムに合わせて意思を尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、外出時に服を選んでもらい、好きな服を着てもらっている。定期的に散髪屋が来所し散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わってもらえるよう、その時期にあった食材を使用し食事提供を行っている。また、野菜の下処理、取り分け、お盆拭き等できる所を無理のないよう手伝ってもらっている。月に1回の外食により楽しみを提供し食べる意欲を感じてもらえるよう支援している。	食事はホームで3食手作りで行われています。旬の食材を使用し季節感を味わっておられます。職員と一緒に野菜の下処理、取り分け、お盆拭き等無理のないよう手伝われています。月に1回は外食を楽しまれ、食べる意欲を感じてもらえるよう支援が行われています。外食は全員参加されています。「コロナウイルス」の為外食に出かけることが出来ないので「テイクアウト」で支援されています。誕生会はケーキか饅頭を選び楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態、カロリー、特別食の提供を行っている。水分量は一人一人の体重に合わせた水分量を決め水分提供し水分確保に努めている。水分量の少ない方に対してはゼリーや好きな水分を提供し確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、義歯洗浄を一人一人に合った方法で行っている。週1回は義歯洗浄剤を使用し、義歯清潔を保っている。口腔ケア時、口腔内の観察をし異常あれば医療に報告している。歯科衛生士による口腔ケア指導をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、パターンに合わせて声かけトイレ案内、排泄介助を行っている。プライバシーに配慮しながら自分の出来る所は見守りし、声かけしながら支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握によりパターンに合わせて声掛けやトイレ案内をし排泄介助が行われています。プライバシーに配慮され利用者が出来る所は見守りを行い、声掛けをしながら排泄の支援が行われています。夜間定時案内も必要な方には行なわれます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量1500CC以上の確保、昼食時のヨーグルトの提供、オリゴ糖を使用し、排便リズムを把握しながら促しを行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴を提供している。入浴時はゆっくりと入浴して頂けるよう関わり、コミュニケーションを図りながら安全に入浴できるよう支援している。	週2回入浴支援が行われています。利用者の状態に合わせて、清拭、シャワー浴、個浴での入浴が行なわれています。入浴時にはリラックスして入浴して頂けるようコミュニケーションを図りながら、安全面に注意して入浴区支援が行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量増やし、就寝前にホットタオルやマッサージを行い、関わりを持ち、穏かに入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、3重での薬の確認を行っている。臨時処方、変更があった定期処方連絡ノートに記入し、全職員に周知し、間違い、服薬モレがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を把握し、個々に合った役割を提供している。提供後に感謝の言葉、気持ちを伝え、役に立っている、という自信や喜びを感じてもらえるよう、支援している。レクリエーションを提供し、楽しみを提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出、外食を家族の参加を募り行っている。また、日々の中ではGHの周りを散歩、家族の協力のもと馴染みの美容院、理髪店へ行ったり、自宅付近へ戻られることもあり、支援に努めている。	行事で外出や近所の川端の桜見物等、外出が行われています。外食時も家族の参加を募り、家族と共に外食を楽しまれ方もおられます。外出は全員出かけられます。現在「コロナウイルス」感染防止の為、面会禁止、行事や外出は行われていません。外出が出来なくなった為、家族と電話で話したり、家族、友人に手紙を出される方もおられます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食、外出行事の際や移動スーパーでの買い物際、職員と一緒にほしい物を選び、支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親戚等宛年賀状を書いてもらっている。希望時や外部、家族から電話がかかってきたときは直接話をし、やり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度計を共有スペースに置き、定期的に換気を行い、調節、管理をしながら適温に努めている。また、毎月、生け花を行い、季節の花を飾り、季節感を感じてもらえるよう支援している。	ホームすぐ近くの花屋さんから毎月利用者が好きな花を選び生け花をされています。季節の花の生け花で季節感を感じてもらえるよう支援を行われています。「コロナウイルス」対策も兼ねて、共有空間に温度、湿度計を設置され調節、管理を行い適温に努められておられ、定期的に換気も行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格にあわせ、利用者同士で話ができるようリビングの席の配置を行い、居場所作りができるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具、寝具、衣類、写真等を持ってきてもらい、住み慣れた環境に近い居室で過ごしてもらえるよう努めている。	自宅で使い慣れた家具、寝具、衣類、写真等を持参され、居室を住み慣れた環境に近い居室作りをされ居心地よく過ごされています。麻痺等ある方はPTにベッドの配置を伺いながら使いやすく設置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札をつけ、トイレ、入浴場がわかるようにしている。共有スペースには日付けカレンダーをつけ日にちがわかるようにし、利用者が通る同線には物を置かないよう、安全に移動ができるように努めている。		